

## 【樹木の部屋】

### リキュウバイ（バラ科ヤナギザクラ属 *Exochorda racemosa*）

**和名**：リキュウバイ (利休梅、利久梅)

**別名**：ウメザキウツギ、バイカシモツケ、ウツギモドキ、マルバヤナギザクラ

**英名**：Common Pearl Bush

バラ目 落葉低木 **原産地**：中国

**花言葉**：控えめな美しさ **花の色**：白



← 写真-1 リキュウバイ

撮影日：2018年04月11日

撮影場所：芳徳寺(奈良市柳生)にて

撮影者：M さん

↘ 写真-2 リキュウバイの小枝

撮影日：2018年04月11日

撮影場所：芳徳寺(奈良市柳生)にて

撮影者：M さん



← 写真-3 リキュウバイの花

撮影日：2018年04月11日

撮影場所：芳徳寺(奈良市柳生)にて

撮影者：M さん

奈良市柳生の芳徳寺を訪れた際、入り口から本堂への渡り廊下近くで見かけました。注意しないと見落とすかも知れないように、静かに咲いていました。美しい花を咲かせることから、欧米では人気の花木だそうで、日本でも庭木や公園樹としてよく植栽されます。

茶人、千利休に因んで付けられたとされていますが、この木は明治の頃に中国からやってきたそうですから、千利休が好んだ花ということではないそうです。実際のところは、この木を売り広めた種苗業者が名付けられたらしく、利休という名前をもらったので茶花として使われるようになったようです。牧野富太郎博士が命名した和名はウメザキウツギ、一名バイカシモツケとされています。開花は4～6月で、花径3～4cmほどの梅に似た5弁の白花が咲きます。主張し過ぎない清楚な花が茶人に好まれ、茶庭に使われることが多い花木です。「千利休の命日に咲く」という逸話も。

### 剪定について・・

リキュウバイは生育旺盛で萌芽力もあるので、どの部分で剪定しても問題はありませんが、花芽が枝先に付きます。刈り込み剪定など枝先を切断する様な剪定は花芽を落としてしまうので要注意です。また、短枝はなるべく切らない様に注意すること。花後の剪定は、特に目障りな伸びすぎた枝などを剪定して樹形を整える程度の軽めに。強めの剪定は、落葉後の冬場に、長く伸びた枝には花芽が付かないので、10cmほど残して切っておきます。後は、混みすぎた枝などを切り取って樹形を整えます。大きな枝を切ると、そこから枯れこむことがあるので要注意です。